＜巻頭言＞

命の歓びと生への寄り添い

2020 年度の第 59 回日本社会事業大学社会福祉研究大会は、「人に向き合うソーシャルワーク ―命の歓びと生への寄り添い―」をテーマに掲げ、2020 年 6 月 27 日（土）、28 日（日）に開催する予定で準備を進めていた。副題にある“命の歓びと生への寄り添い”は、基調講演として招聘を予定していた沖田×華氏の漫画作品「透明なゆりかご」の内容と関連付けた。

漫画「透明なゆりかご」は、著者の沖田氏がアルバイトをしていた産婦人科医院での様々な人との関わり、出来事との出会いの経験が元になっているという。様々な理由から人工妊娠中絶に至った人とのやり取り、その処置に関わる経験も描かれている。そこでは人の“生”や“命”が、様々な事情が絡み合い、ときにそれに翻弄されながら多様な方向へ展開していく。そうしたなかで、いかに私たちが多様な背景をもつ“人”たちに向き合っているのか、向き合っていけるのかという、メインテーマに関する問いが投げかけられているように思える。

残念ながら第 59 回の社会福祉研究大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、開催中止とせざるを得なかった。重症化される方や亡くなられる方もおり、期せずして“生”や“命”を優先しての苦渋の決断であった。それに関連して、これまでこの社会事業研究には、社会福祉研究大会の基調講演や分科会等の報告も盛り込まれていたが、この第 60 巻ではそれが叶わない。その一方で、本巻には今回 6 本もの論文を投稿いただいた（うち原著論文 3 本、研究ノート 1 本、資料・報告 2 本、実践研究報告 1 本）。過去 5 年を遡ってもこの投稿論文数は突出して多い。なかには社会福祉研究大会での発表を予定していた方からの投稿もある。本学社会福祉学会員が日頃の研究や実践を報告し知見を共有する場として、研究大会および本誌が重要な場となっていることを、改めて認識した次第である。

投稿論文の内容は、目次での一覧および本文で詳しくご覧いただきたい。それぞれの学会員が多様なテーマで論じているのでまとめることは困難であろうが、一歩引いて内容を眺めているとその背景には、大きく２つの視点があるように思える。一つは、福祉支援の対象となる人のみならず、支援に従事する人たちも含めた“多様性”が交錯するなかで生じる課題に向き合う視点。もう一つは、福祉専門職の養成・成長に関する視点である。そしてその両視点とも、“人と向き合うソーシャルワーク”というテーマで捉えてみようとすると、様々なことを改めて考えることのできる内容を含んでいる。

残念ながら今年度は社会福祉研究大会が開催できなかったが、予定していたテーマの観点をもって本巻に目を通していただくと、それぞれで新たな発見があるかもしれない。

2021 年 1 月

日本社会事業大学社会福祉学会会長
日本社会事業大学学長
神　野　直　彦